令和５年１１月２０日

令和５年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和５年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和5年4月18日（火）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語，数学，英語，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　　５５人

②　算数　　５５人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており，実施教科が国語，算数の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

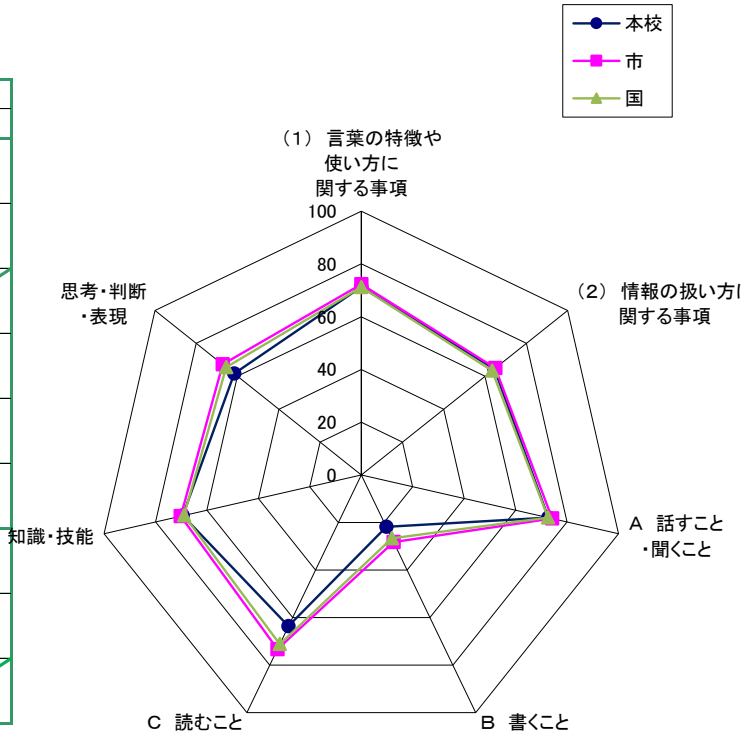
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸小学校第６学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	71.3	72.3	71.2
	（2） 情報の扱い方に関する事項	64.5	65.0	63.4
	（3） 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	72.7	74.2	72.6
	B 書くこと	21.8	28.2	26.7
	C 読むこと	63.6	73.3	71.2
観点	知識・技能	69.4	70.2	68.9
	思考・判断・表現	61.6	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

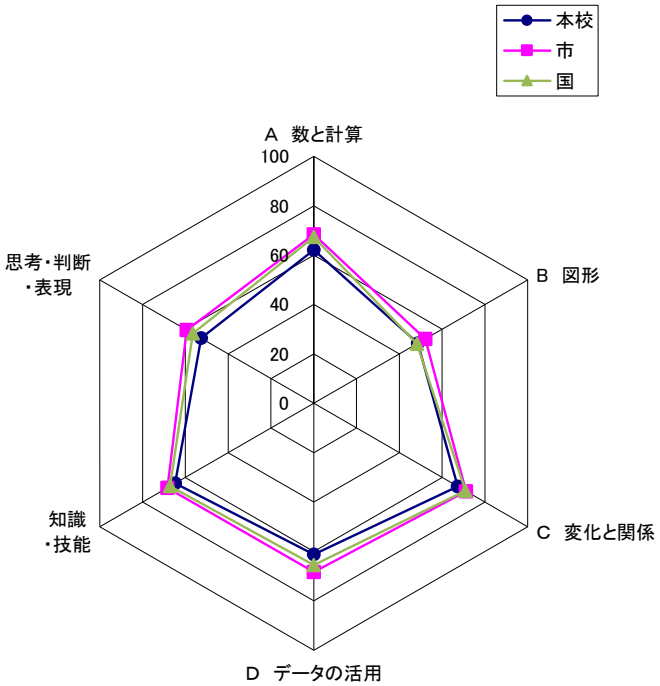
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
（1）言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は71.3%で，国・市平均と同程度である。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題では，市の平均正答率より6．9ポイント高い。 ●日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる問題では，市の平均正答率より10．9ポイント低い。	・漢字小テストを定期的に行ったり，AIドリルを活用したりして，既習漢字の読み書きの確実な定着を図る。 ・日常生活の中で適切に敬語を使うことを意識させ，文章を書いた際は，使い方に誤りがないか確認したり，朝の学習の時間を活用して敬語に関する問題を解いたりする機会を設けていく。
（2）情報の扱い方に関する事項	平均正答率は64.5%で，国・市平均と同程度である。 ○情報と情報の関係付けの仕方，図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題では，市の平均正答率より4．8ポイント高い。 ●原因と結果など情報と情報の関係について理解しているかどうかをみる問題では，市の平均正答率より5．8ポイント低い。	・調べたことを報告したり説明したりする学習では，目的に応じて図表やグラフを選んだり，本や文章を引用したりするなど，資料の用い方や効果的な表現の仕方について指導していく。 ・説明文の学習では，原因と結果，意見と理由などの関係を意識して読み取るよう指導していく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は72.7%で，国・市の平均と同程度である。 ○目的や意図に応じ，話の内容を捉え，自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題では，市の平均正答率より4．3ポイント高い。 ●必要なことを聞き，話し手が伝えたいことや自分が話したいことの中心を捉える問題では，市の平均正答率より4ポイント程度低い。	・話し手の意図を捉えて話を聞いたり，自分の考えと比較しながらメモに書き加えたりするなどして，自分の考えをまとめる活動を積極的に取り入れていく。 ・話合い活動を意図的に多く取り入れる。その際，話し手の意図を捉え自分の考えと比較しながら聞いたり，自分の考えを明確にして話したりすることを継続して指導していく。
B 書くこと	平均正答率は21.8%で，国の平均より4．9ポイント，市の平均より6．4ポイント低い。 ●図表やグラフなどを用いて，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題では，市の平均正答率より6．4ポイント低い。	・文章を書くことに対する苦手意識を減らすため，宿題等で日記を書いたり，学校行事等の振り返りを書いたりするなど，日常的に文章を書く機会を増やしていく。 ・朝の学習の時間に行っている，定められたテーマや字数で文章をまとめて書く活動を今後も継続していく。
C 読むこと	平均正答率は63.6%で，国の平均より7．6ポイント，市の平均より9．7ポイント低い。 ○目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける問題では，市の平均正答率と同程度であった。 ●目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる問題では，市の平均正答率より14．2ポイント低い。	・目的に応じて文章の中から必要な情報を見付けて読む能力を育てるため，中心となる文やキーワードとなる語を見付けながら読む，図表と結び付けて読む，読み取った内容を要約して書くなどの活動を意図的に増やしていく。 ・読んで分かったことや感じたことなどについて友達と交流する場を意図的に設定し，対話的な学びから自分の考えを深めることができるようにする。

宇都宮市立御幸小学校第６学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A　数と計算	62.1	68.4	67.3
	B　図形	48.6	52.2	48.2
	C　測定			
	C　変化と関係	67.3	71.2	70.9
	D　データの活用	61.2	68.3	65.5
観点	知識・技能	64.8	68.4	67.2
	思考・判断・表現	52.7	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A　数と計算	平均正答率は62.1%で，国の平均より5．2ポイント低く，市の平均より6．3ポイント低い。 ●示された日常生活の場面を解釈し，小数の加法や乗法を用いて，求め方と答えを式や言葉を用いて記述し，その結果から条件に当てはまるかどうかを判断する問題では，市の平均正答率より11．4ポイント低い。 ●「以上」の意味を理解し，示された表から必要な数を読み取る問題では，市の平均正答率より10．6ポイント低い。	・今後も，基本的な計算の定着に向けた練習を継続するとともに，児童の状況に応じてやや複雑な問題を解決する力も身に付けられるよう，習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図る。 ・日常場面に即して，判断して計算する問題については，示された場面をしっかり解釈し，自分の考えを式や言葉を使って説明できるよう，グループや全体での学びを授業の中に取り入れていく。
B　図形	平均正答率は48.6%で，国の平均と同程度であったが，市の平均より3．6ポイント低い。 ○正方形の意味や性質について理解する問題では，市の平均正答率と同程度であり，授業の中で図形の名前や性質を確認する機会を設定してきた成果であると考えられる。 ●高さが等しい三角形について，底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し，その理由を言葉や数を用いて記述する問題では，市の平均正答率より7．0ポイント低い。	・三角形の面積の大小を正しく判断するだけでなく，その理由を正しく説明できるように「底辺」や「高さ」などのキーワードを使って指導していく。 ・平面図形や立体の学習では，具体物を実際に観察したり操作したりする算数的な活動を通して，特徴を理解できるようにする。 ・5年生までの復習問題やフォローアップ問題，AIドリルを活用して多角形の性質の理解の習熟を図る。
C　変化と関係	平均正答率は67.3%で，国・市の平均より約3ポイント低い。 ○伴って変わる二つの数量について，表から変化の特徴を読み取り，知りたい数を求める問題では，市の平均正答率と同程度である。 ●比例の関係にあることを用いて，知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題では，市の平均正答率より6．2ポイント低い。	・問題場面の数量の関係を捉えられるよう，図に表して考えることができるよう授業の中で指導していく。 ・なぜこの方法がふさわしいのか，話し合う学習を通して，ふさわしい理由や答えの導き方を考えさせる場面を設定し，筋道を立てて説明する力を系統的に育てるようにする。
D　データの活用	平均正答率は61.2%で，国の平均より4．3ポイント低く，市の平均より7．1ポイント低い。 ○二次元表から，条件に合う数を読み取る問題では，市の平均正答率と同程度であり，昨年度の結果と比較すると表やグラフを読み取る力が高まっていると考えられる。 ●示された棒グラフと，複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み，見いだした違いを言葉と数を用いて記述する問題では，市の平均正答率より8．8ポイント低い。	・統計データの特徴や傾向を捉えて，授業の中で考えを出し合う場を意図的に設けることにより，データを注意深く読み取る力や多面的・批判的に考える力を育む。 ・記述式の問題について，自分の考えや学習の振り返りを書く時間を十分確保するとともに，自分の考えを説明したり友達に伝え合ったりする活動を通し，言葉や数を使って説明する力を育んでいく。

宇都宮市立御幸小学校 第６学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「自分には良いところがあると思いますか」という質問に対して，肯定的回答をした児童の割合は96.3%で，全国・県平均より10ポイント以上高い。日頃の生活の中で友達同士が褒め合う機会を意図的に増やしたり，「いいねカード」を使って互いの良さを共有し合ったりして自己肯定感の向上に努めた成果であると考えられる。

○「5年生までに受けた授業で，PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか」という質問に対して，肯定的回答をした児童の割合は76.3%で，全国・県平均より10ポイント以上高い。総合や社会での調べ学習・まとめ学習や，考えを深める活動及び友達との意見交流でICT機器を効果的に活用していた成果であると考える。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていますか」という質問に対して，肯定的回答をした児童の割合は90.9%で高い。各教科の授業でペア活動やグループ活動を積極的に取り入れ，友達の意見を聞いたり，自分の意見を話したりする場を設けてきた。今後も，話し合い活動を積極的に取り入れ，自分の考えを深めたり広げたりしていけるように努めていく。

●「学校の授業時間以外に普段，１日当たりどのくらいの時間，読書をしますか」という質問に対して，１時間以上している児童は，3.6%で，全国・県の平均より13ポイント以上下回っている。さらに「昼休みや放課後，学校が休みの日に，本を読んだり，借りたりするために，学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」の質問の毎週利用している児童の回答は，県平均より6．4ポイント下回っている。週2回の朝の読書の時間の声掛けをしたり，ブックトークなどで本を紹介したり，チャレンジブック読書の奨励をしたりして今後も本校独自の読書活動に取り組んでいく。また，「家読（うちどく）」の啓発など学校だけではなく家庭と連携して読書活動を充実させていく。

●「朝食を毎日食べていますか」という質問に対して，肯定的回答をした児童の割合は89.1%で，全校・県の平均より約5ポイント下回っている。朝食は1日の元気の源となるため，毎日食べることが望ましい。学年だよりや懇談会を通じて家庭へ呼びかけをしたり，保健体育や家庭科の授業で朝食を食べる大切さを伝えたり，栄養士と連携したりしていくことで，朝食を食べることへの意識を高めていく。

宇都宮市立御幸小学校（第６学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
言語活動の充実	・共同作業や問題解決的な学習など，児童同士が協力し合ったり教え合ったりする交流の場の設定 ・考え方や理由を筋道立てて説明する学習活動の設定	○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていますか」の質問に対して，肯定的回答をした児童の割合は90.9%であり，全国より約10ポイント，県より6．8ポイント上回っている。
基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	・音読活動の充実 ・朝のぐんぐんタイムの充実（漢字練習・計算練習・「書く」活動・読書） ・AIドリルの活用とステップアップシートの実施（年5回全校実施）	国語では，漢字の読み書きはおおむね身に付いているが，敬語の使い方に関する問題の正答率が低い。 算数では，場面と関連付けて式を読み取る問題や，2位数÷1位数の筆算について図を基に商の意味を考える問題では，正答率が低く，無回答率も高い。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
自分の考えが伝わるように，図表やグラフを用いながら，書き方を工夫して文章にまとめる問題や式の意味を言葉で説明する問題では，平均正答率が市より下回っている。	・児童一人一人が自分の考えをもち，考え方や理由を筋道立てて説明する学習活動の充実	どの児童も自分の考えをもち，言葉や文章で表現できるように，発問・指示の仕方やワークシート等を工夫する。 目的に応じたペア学習やグループ学習を効果的に取り入れ，自分の考えを伝え合える場やなどの学び合いを工夫することにより，表現力を伸ばし，考えを広げ深められるようにする。